

令和8年上半期 火災・救急概況（速報）

～令和8年1月1日から令和8年6月30日まで～

① 火災件数は減少するも、電気火災(※)は過去10年間で最多

- ・全火災件数は379件で、前年と比べて34件減少しています。
- ・電気火災は134件で、前年と比べて18件増加し、過去10年間で最多となっています。
- ・電気火災のうち、リチウムイオン電池関連火災は44件で、過去最多となっています。

② 救急出場件数・搬送人員ともに2年連続の減少

- ・救急出場件数は115,598件で、前年と比べて4,817件（4.0%）減少しています。
- ・搬送人員は95,720人で、前年と比べて1,568人（1.6%）減少しています。

※電気火災とは、電気をエネルギーとする機器や用品、設備などが発火源となった火災です。

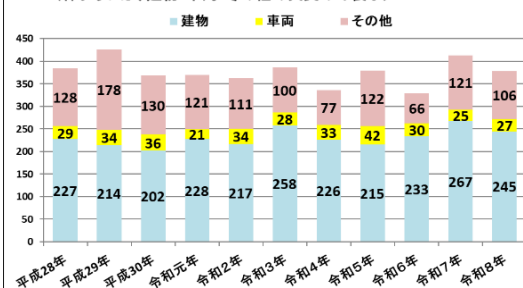
1 火災の概況（詳細は、別添資料1参照）

(1) 火災件数及び焼損床面積【図1】

- ・全火災件数は379件で、前年同期と比べて34件減少しています。火災種別ごとにみると、建物火災は245件（同22件減）、その他の火災は106件（同15件減）、林野火災は1件（同1件増）、車両火災は27件（同2件増）となっています。
- ・建物火災のうち住宅火災は166件（同5件減）となっています。
- ・全火災の焼損床面積は3,729㎡（同471㎡増）で、そのうち住宅火災の焼損床面積は2,791㎡（同641㎡増）となっています。

【図1】主な火災種別ごとの推移

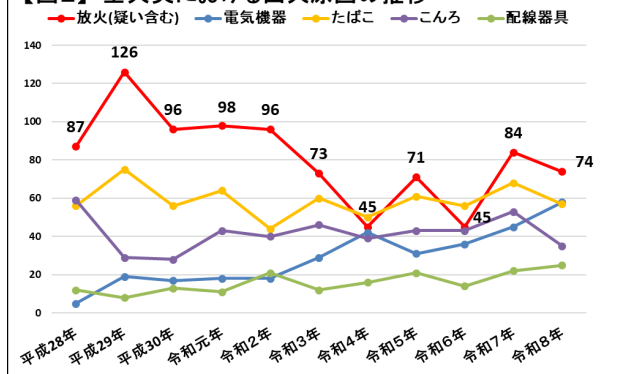
（棒グラフは、建物・車両・その他の火災のみ表示）



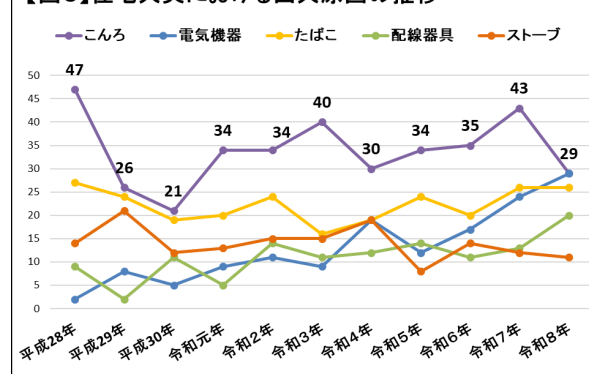
(2) 主な出火原因【図2】【図3】

- ・全火災の出火原因上位は、「放火（疑い含む）」74件（前年同期比10件減）、次いで「電気機器」58件（同13件増）、「たばこ」57件（同11件減）となっています。
- ・住宅火災の出火原因上位は、「こんろ」（同14件減）、「電気機器」（同5件増）ともに29件、次いで「たばこ」26件（前年同数）となっています。

【図2】全火災における出火原因の推移



【図3】住宅火災における出火原因の推移



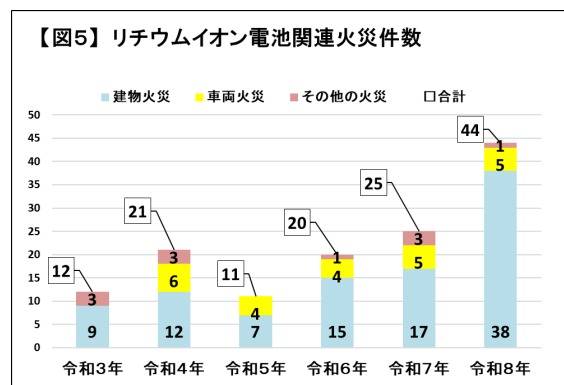
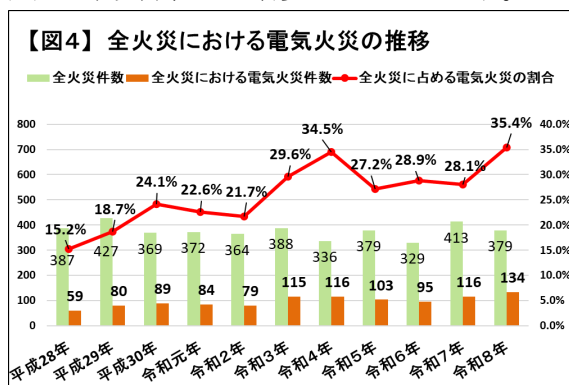
裏面あり

GREEN × EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

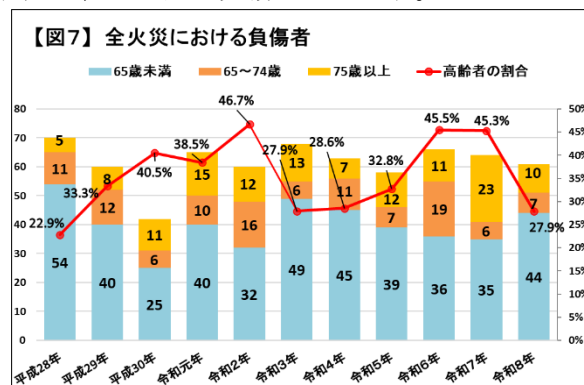
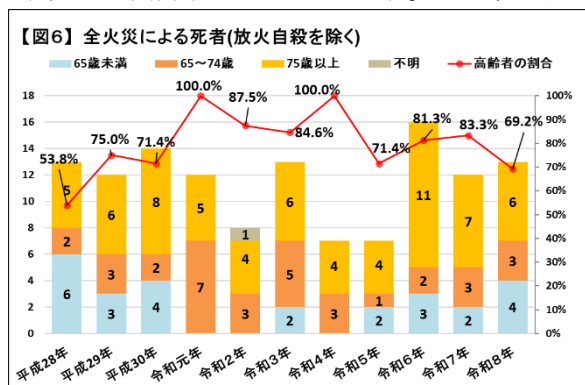
(3) 電気火災及びリチウムイオン電池関連火災【図4】【図5】

- ・全火災のうち134件（35.4%）が「電気火災」で、過去10年間で最多となっています。そのうち出火原因上位は、家電製品などを発火源とする「電気機器」58件（前年同期比13件増）、次いでテーブルタップなどを発火源とする「配線器具」25件（同3件増）となっており、どちらも過去10年間で最多となっています。
- ・モバイルバッテリーなどのリチウムイオン電池に起因した火災は44件（同19件増）で、統計を取り始めた令和3年以降、過去最多となっています。



(4) 火災による死者及び負傷者【図6】【図7】

- ・放火自殺を除く全火災の死者は13人（前年同期比1人減）で過去10年間平均と同数、そのうち9人（69.2%）が65歳以上の高齢者となっています。また、12人（92.3%）が住宅火災でお亡くなりになっています。
- ・火災による負傷者は61人（同3人減）で、過去10年間平均から1人減少し、そのうち17人（27.9%）が65歳以上の高齢者となっています。また、52人（85.2%）が住宅火災で負傷しています。



火災を起こさないために！今できる防火対策

○ リチウムイオン電池に潜む火災リスク

モバイルバッテリーやスマートフォンなど、身近な電気機器に広く利用されていますが、衝撃や劣化、誤った使用により、火災が発生する恐れがあります。

リチウムイオン電池の使用時に気を付けるポイント☑

- ☐ 強い衝撃や圧力を加えない
- ☐ 高温環境下で使用・保管しない
- ☐ 目の届くところで充電する
- ☐ 発熱・膨張など、異常を感じたら使用を中止する
- ☐ リコール情報の確認・メーカー指定品を使用する

○ 住宅火災出火原因ワースト1！こんろ火災対策

こんろの周囲は整理整頓し、使用時は絶対にその場から離れないようにしましょう。

○ 住宅用火災警報器の設置・点検

火災の早期発見・避難に有効です。定期的に点検を行い、10年を目安に交換しましょう。



詳しい防火対策は、よこはま防災e-パークでチェック！▶▶▶

次項あり



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

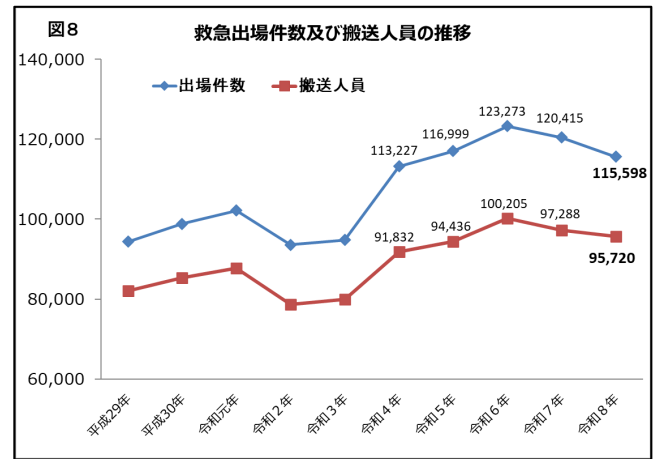
2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



2 救急の概況（詳細は、別添資料2 参照）

(1) 救急出場件数及び搬送人員【図8】

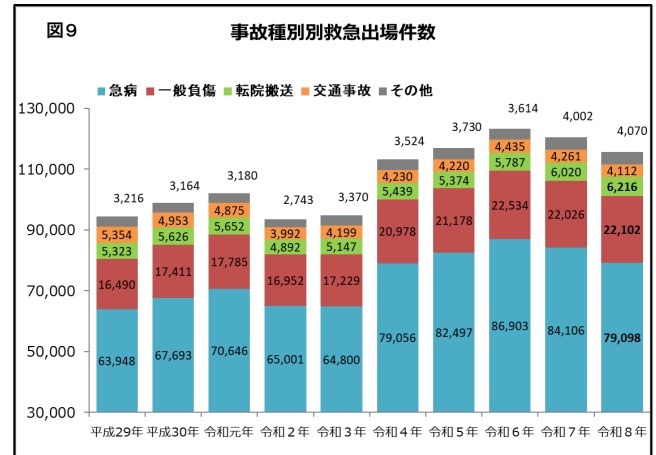
- ・救急出場件数は115,598件（前年同期比4,817件減）、搬送人員は95,720人（同1,568人減）となっています。
- ・1日あたりの平均救急出場件数は639件（同27件減）となっています。
- ・2分15秒に1回救急車が出場していることとなります（前年同期は2分10秒に1回）。



(2) 事故種別別救急出場件数【図9】

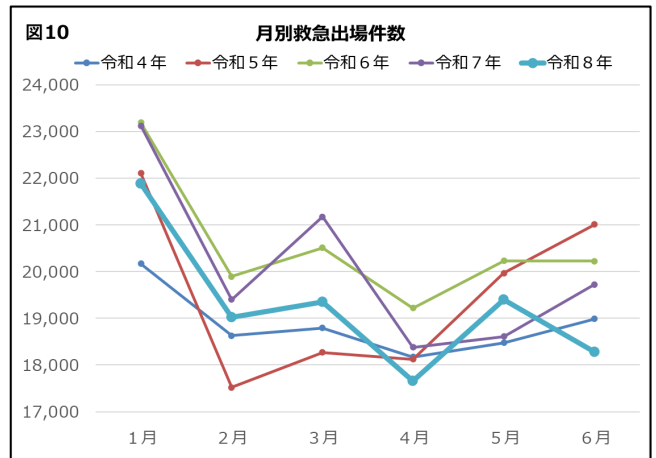
- ・事故種別ごとの救急出場件数は、「急病」が79,098件（前年同期比5,008件減）、「一般負傷※」が22,102件（同76件増）、「転院搬送」が6,216件（同196件増）、「交通事故」が4,112件（同149件減）となっています。

※ 「一般負傷」とは、「労働災害や運動競技等に分類されない不慮の事故」をいい、住宅内での転倒・転落、やけど等が該当します。



(3) 月別救急出場件数【図10】

- ・1月の救急出場件数は、21,889件（前年同期比1,232件減）で、上半期最多となっています。
- ・前年同期と比べ、5月のみ救急出場件数が増加しましたが、その他の月では全て減少しています。

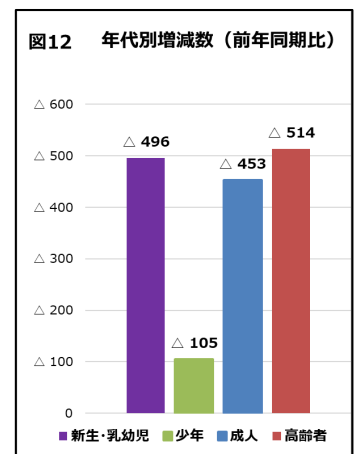
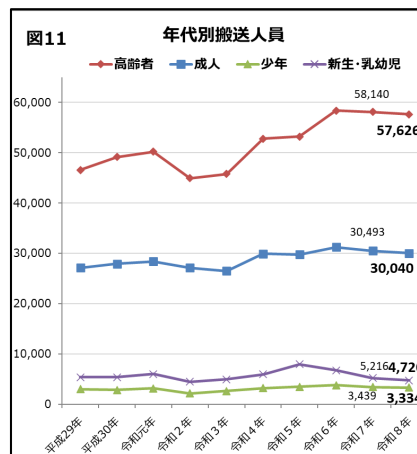


(4) 行政区別救急出場件数

- ・救急出場件数が最も多かったのは、港北区(9,204件)、次いで戸塚区(8,657件)、中区(8,572件)となっています。
- ・前年同期と比べ、すべての区で救急出場件数が減少しています。

(5) 年代別搬送人員【図11】【図12】

- ・年代別の搬送人員は、65歳以上の「高齢者」が57,626人（60.2%）、18歳以上65歳未満の「成人」が30,040人（31.4%）、7歳以上18歳未満の「少年」が3,334人（3.5%）、7歳未満の「新生・乳幼児」が4,720人（4.9%）となっています。
- ・前年同期と比べ、全年代で搬送人員が減少しています。



裏面あり



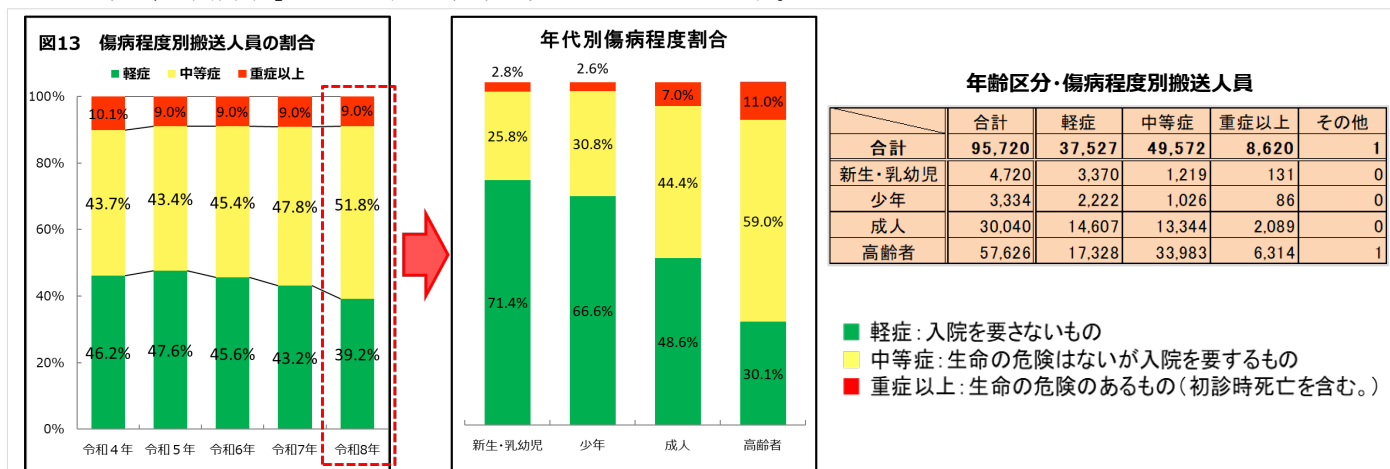
GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



(6) 傷病程度別搬送人員（医療機関初診時）【図13】

- ・傷病程度別の搬送人員は、「軽症」が37,527人（前年同期比4,480人減）、「中等症」が49,572人（同3,085人増）、「重症以上」が8,620人（同174人減）となっています。
- ・年代別の傷病程度別の割合を見ると、「新生・乳幼児」では71.4%、「少年」では66.6%が軽症であるのに対し、「高齢者」では70%が中等症以上となっています。

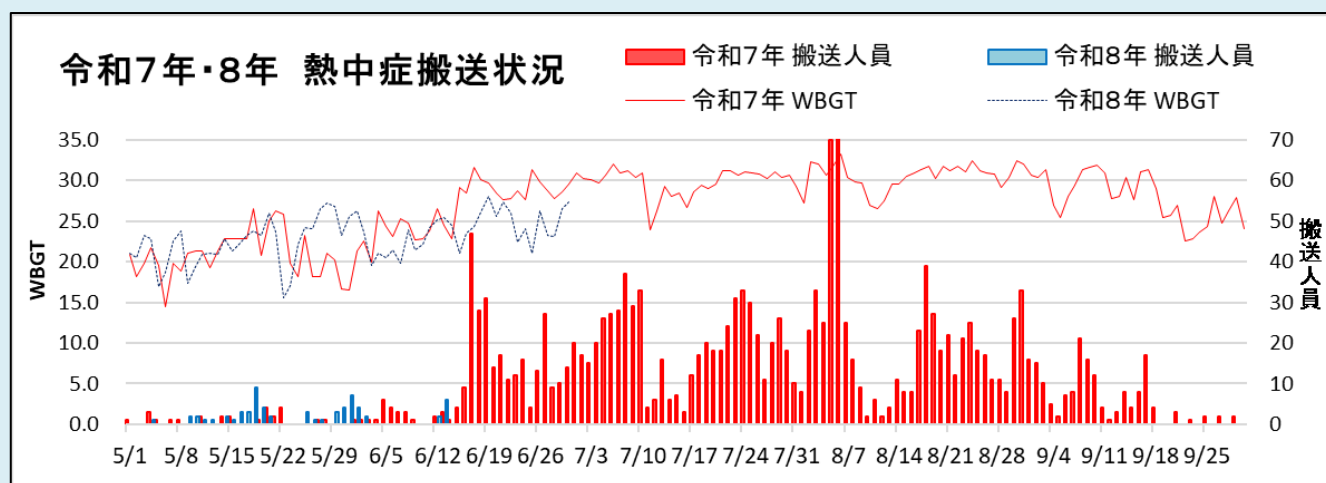


※ グラフ等の割合は小数第2位を四捨五入しているため、表中の合計が100%にならない場合があります。

これからの季節、熱中症に御注意ください！

今年は、6月30日現在、昨年と比べ熱中症による救急搬送は減少していますが、7月以降は気温が急激に上昇する可能性があり、引き続き警戒が必要です。

こまめな水分・塩分補給、エアコンの適切な使用、日中の外出を控えるなど、日頃からの対策を徹底してください。特に高齢者や小さなお子様への声掛けなど、見守りにもご協力をお願いします。



あんしん救急-知って予防！救急車



おぼえておきたい3つのステップ！！

- ステップ1 元気なうちにしっかり備える
- ステップ2 困ったときはまず相談
- ステップ3 こんな時こそ救急車

詳しくは
こちら▶



お問合せ先

(火災に関すること)	消防局予防課長	笹尾	Tel 045-334-6601
(救急に関すること)	消防局救急企画課長	吉元	Tel 045-334-6771



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



令和8年上半期の火災概況〈速報〉

1 火災種別・損害状況

単位：件

年別 区分		令和8年 (A)	令和7年 (B)	前年比 (A) - (B)	過去10年間の平均 (平成28年～令和7年) (C)	増△減 (A) - (C)
火災種別	全火災	379	413	△34	376	3
	建物火災	245	267	△22	229	16
	住宅火災	166	171	△5	150	16
	林野火災	1	-	1	-	1
	車両火災	27	25	2	31	△4
	船舶火災	-	-	-	1	△1
	航空機火災	-	-	-	-	-
	その他の火災	106	121	△15	115	△9
損害状況	焼損床面積(㎡)	3,729	3,258	471	3,743	△14
	死者(人)	13	14	△1	13	-
	放火自殺者	-	2	△2	1	△1
	負傷者(人)	61	64	△3	62	△1
	住宅火災 焼損床面積(㎡)	2,791	2,150	641	2,415	376
	死者(人)	12	12	-	11	1
	放火自殺者	-	-	-	1	△1
	負傷者(人)	52	48	4	46	6

備考 住宅火災の件数は建物火災の内数、住宅火災の損害状況は全火災の損害状況の内数 また、放火自殺者数は死者数の内数
過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

2 主な出火原因

単位：件

年別 区分		令和8年 (A)	令和7年 (B)	前年比 (A) - (B)	過去10年間の平均 (平成28年～令和7年) (C)	増△減 (A) - (C)
全火災	放火(疑いを含む)	74 -	84 -	△10 -	82 -	△8 -
	電気機器	58 (58)	45 (45)	13 (13)	26 (26)	32 (32)
	たばこ	57 -	68 -	△11 -	59 -	△2 -
	こんろ	35 (7)	53 (6)	△18 (1)	42 (4)	△7 (3)
	配線器具	25 (25)	22 (22)	3 (3)	15 (15)	10 (10)
	上記以外の出火原因	130 (44)	141 (43)	△11 (1)	152 (49)	△22 (△5)
	計	379 (134)	413 (116)	△34 (18)	376 (94)	3 (40)
住宅火災	こんろ	29 (6)	43 (5)	△14 (1)	34 (3)	△5 (3)
	電気機器	29 (29)	24 (24)	5 (5)	12 (12)	17 (17)
	たばこ	26 -	26 -	- -	22 -	4 -
	配線器具	20 (20)	13 (13)	7 (7)	10 (10)	10 (10)
	ストーブ	11 (9)	12 (10)	△1 (△1)	14 (11)	△3 (△2)
	上記以外の出火原因	51 (10)	53 (14)	△2 (△4)	57 (13)	△6 (△3)
	計	166 (74)	171 (66)	△5 (8)	150 (49)	16 (25)

備考 ()内は電気起因する火災で各出火原因の内数
過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

3 行政区別火災発生状況

単位：件

年別 区分		令和8年 (A)	令和7年 (B)	前年比 (A) - (B)	過去10年間の平均 (平成28年～令和7年) (C)	増△減 (A) - (C)
行政区	鶴見区	32	34	△2	31	1
	神奈川区	27	22	5	25	2
	西区	13	11	2	16	△3
	中区	35	48	△13	37	△2
	南区	24	28	△4	22	2
	港南区	13	17	△4	18	△5
	保土ヶ谷区	23	19	4	17	6
	旭区	13	23	△10	22	△9
	磯子区	16	20	△4	14	2
	金沢区	25	22	3	19	6
	港北区	33	42	△9	36	△3
	緑区	19	22	△3	16	3
	青葉区	20	24	△4	20	-
	都筑区	22	25	△3	18	4
	戸塚区	21	25	△4	28	△7
	栄区	13	6	7	8	5
	泉区	20	16	4	16	4
	瀬谷区	10	9	1	13	△3
	合計	379	413	△34	376	3

備考 過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

令和8年上半期の救急概況〈速報〉

1 救急出場件数

区 分	令 和 8 年	令 和 7 年	増 △ 減	増 減 率
救 急 出 場 件 数	115,598	120,415	△ 4,817	△4.0%
1 日あたりの件数	639	665	△ 27	
出場率（何分何秒に1回）	2分15秒に1回	2分10秒に1回		

2 事故種別別救急出場件数

区 分		令 和 8 年		令 和 7 年		前 年 比 較	
		出 場 件 数	構 成 比	出 場 件 数	構 成 比	増 △ 減	増 減 率
合 計		115,598	100.0%	120,415	100.0%	△4,817	△4.0%
事 故 種 別	急 病	79,098	68.4%	84,106	69.8%	△5,008	△6.0%
	一 般 負 傷	22,102	19.1%	22,026	18.3%	76	0.3%
	転 院 搬 送	6,216	5.4%	6,020	5.0%	196	3.3%
	交 通 事 故	4,112	3.6%	4,261	3.5%	△149	△3.5%
	そ の 他	4,070	3.5%	4,002	3.3%	68	1.7%

3 傷病程度別搬送人員

区 分		令 和 8 年		令 和 7 年		前 年 比 較	
		搬 送 人 員	構 成 比	搬 送 人 員	構 成 比	増 △ 減	増 減 率
合 計		95,720	100.0%	97,288	100.0%	△1,568	△1.6%
程 度	軽 症	37,527	39.2%	42,007	43.2%	△4,480	△10.7%
	中 等 症	49,572	51.8%	46,487	47.8%	3,085	6.6%
	重 症 以 上	8,620	9.0%	8,794	9.0%	△174	△2.0%
	そ の 他	1	0.0%	0	0.0%	1	100.0%

4 年代別搬送人員

区 分		令 和 8 年		令 和 7 年		前 年 比 較	
		搬 送 人 員	構 成 比	搬 送 人 員	構 成 比	増 △ 減	増 減 率
合 計		95,720	100.0%	97,288	100.0%	△1,568	△1.6%
年 代	高 齡 者	57,626	60.2%	58,140	59.8%	△514	△0.9%
	成 人	30,040	31.4%	30,493	31.3%	△453	△1.5%
	少 年	3,334	3.5%	3,439	3.5%	△105	△3.1%
	新生・乳幼児	4,720	4.9%	5,216	5.4%	△496	△9.5%

5 発生行政区別救急出場件数

区 分		令 和 8 年		令 和 7 年		前 年 比 較	
		出 場 件 数	構 成 比	出 場 件 数	構 成 比	増 △ 減	増 減 率
合 計		115,598	100.0%	120,415	100.0%	△4,817	△4.0%
行 政 区	鶴 見	8,472	7.3%	8,834	7.3%	△362	△4.1%
	神 奈 川	7,455	6.4%	7,577	6.3%	△122	△1.6%
	西	4,890	4.2%	5,270	4.4%	△380	△7.2%
	中	8,572	7.4%	8,611	7.2%	△39	△0.5%
	南	6,977	6.0%	7,558	6.3%	△581	△7.7%
	港 南	7,250	6.3%	7,371	6.1%	△121	△1.6%
	保 土 ケ 谷	5,986	5.2%	6,154	5.1%	△168	△2.7%
	旭	7,502	6.5%	7,774	6.5%	△272	△3.5%
	磯 子	5,110	4.4%	5,373	4.5%	△263	△4.9%
	金 沢	5,943	5.1%	6,396	5.3%	△453	△7.1%
	港 北	9,204	8.0%	9,698	8.1%	△494	△5.1%
	緑	5,209	4.5%	5,420	4.5%	△211	△3.9%
	青 葉	7,316	6.3%	7,548	6.3%	△232	△3.1%
	都 筑	5,031	4.4%	5,205	4.3%	△174	△3.3%
	戸 塚	8,657	7.5%	8,791	7.3%	△134	△1.5%
	栄	3,536	3.1%	3,889	3.2%	△353	△9.1%
	泉	4,766	4.1%	4,968	4.1%	△202	△4.1%
	瀬 谷	3,683	3.2%	3,956	3.3%	△273	△6.9%
	市 外	39	0.0%	22	0.0%	17	77.3%

6 月別救急出場件数

区 分	令 和 8 年		令 和 7 年		前 年 比 較	
	出 場 件 数	構 成 比	出 場 件 数	構 成 比	増 △ 減	増 減 率
合 計	115,598	100.0%	120,415	100.0%	△4,817	△4.0%
1 月	21,889	18.9%	23,121	19.2%	△1,232	△5.3%
2 月	19,019	16.5%	19,400	16.1%	△381	△2.0%
3 月	19,350	16.7%	21,176	17.6%	△1,826	△8.6%
4 月	17,662	15.3%	18,379	15.3%	△717	△3.9%
5 月	19,397	16.8%	18,613	15.5%	784	4.2%
6 月	18,281	15.8%	19,726	16.4%	△1,445	△7.3%

※全ての表の構成比は小数第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合があります。